

ご書でお話する。

朝食は五時に済ませて九時から朝道開始。十二時まで待てません。その間日曜様は必ず神前に座ってご祈りになり、奥には各先生方の前に今年社員をなるといふお札を掲げようとして心使いされる様子が窺われます。

伊香保では、時には県下中等学校の剣道部の選手を招待して、少年社員と試合をさせておりました。

富士川の棚田(古善社)では面積十万坪、みかん園も経営、年末には大社員全員にみかんが配給されたものです。

映画班については全国小中学校の希望を取りまとめ、主任を代表に映画技師少年社員(各会場の状況等記録)の三名により因幡編成でフィルムは万木科軍と津南ルイバスマフィルム科学者など、教育映画を無料提供(北海道から九州まで、特に六大都市では、各市に一月の滞在が必要)、各地の学校側からは感謝状と相応の宣伝効果があったものと思われました。

二十四歳で社員となり、寮生活から解放されて一般社員同様の生活となります。

遊園地にも、日曜の一日(祝日)で遊園地を開放してくれておりました。本社の一階に富士アイス食卓が入っており全社員

全てが無料で食卓をする事ができたのです。

この食卓を利用することになったのは、この食卓を結婚資金や住宅資金として貯めた社員もいて、中には三千円の貯金をした先輩もいたと聞きました。(ちなみに当時の出来た時代のことでした)

社員は一年間で正社員に昇進して、結婚して結婚したるサラリーマン生活を次男に変わっていき、各親所での先輩方の活躍が期待されました。

特に大先輩の小俣方三郎(節木橋二橋、高橋君一隊方は特筆大書されるべき方々)と思えます。

私の同級生中村博司君も編成部長格を最後に定年退職して平成十四年三月に遺族会(役員)を任じて八十四歳で他界しました。衷心より冥福を祈りつつ追想の文を閉じます。

講談社本館



野間清治顕彰会17年度の足跡

◇4月29日 生涯之碑建立

◇5月26日 桑原仁氏

コレクション野間清治展

◇5月20日 信州風樹文庫

(岩波書店創業者 岩波茂雄氏

吉瀬、岩波書店の全出版物を所蔵 昭和22年創立)

風樹文庫館長 講師 平島佐一氏

◇7月21日 総合区内懇話会・コンサート

劇生行政事務補助事業(劇生の先人を語る)

9月8日～12日(全8回)

◇9月 8日 森森作を語る 講師 延命立雄氏

権原の種コマを発見 教科書に登場

◇9月18日 シンボジウム 書上ミュージアム

書上家財ひびくりの大富豪(行政に貢献、坂口

安吾も書上家に節家生主い安吾の終焉の地)

パネリスト 清水清治・青木玲子・宮崎俊弥

亀田光三・中村一郎の各氏

コーディネーター 大里仁一

◇10月13日 長沢延子を語る 講師 新井淳一氏

桐生女子高校を出て若くして自らの命を絶った鬼

気せまる文庫、要協を許さず常に死と対峙して鮮

烈な詩を書きつづけた、女性だけが時人の第一人者、

◇0月16日 献花式

読書推進賞授賞式・

野外コンサート(大正昭和編成の演劇)

◇0月26日 シンボジウム 安吾を語る

パネリスト 若月忠信(新潟教員大学教授)

奈良彰一・養崎忍子の各氏

10月26日～11月2日まで「白鷺」生原編成

◇11月10日 森山芳平を語る 講師 片山弘美氏

芳平は動物に卓越した技術と先見性で染色・ジャ

ガードを取り入れた、劇生動物の先駆者

◇12月8日 父報川潤を語る 講師 秋山克也氏

「私は染匠者にこの街を自慢する、どうだ美しい

まちだろう」新聞生型にある碑文、安吾が頼っ

て来航

◇12月17日 生涯之碑建立記念の集い

於：南小中学校・生涯之碑前

献花・群読書・バクダン・お汁粉 パニー

◇1月12日 近代化遺産 講師 北川純一郎氏

市内に 240 棟のノコギリ屋根の工場が現存 街

おこしの重要な遺産を活用、また本町1・2丁目

を伝統建造物のコア・ゾーンを生かした文化論、